

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2015 年 5 月 20 日 (水) 1 限 実施
前期① 考査
千葉県立長生高等学校 第 3 学年 全組
Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように 5 桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3 年 D 組 1 番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第1問 次の文章を読み下の問い(問1~問6)に答えよ。(配点 14)

ギリシア思想は、キリスト教とならんで西洋思想を形成する二大潮流の一つである。ギリシア思想の特徴は、人間の理性や合理的な考え方を重んじるところにあるが、この合理主義は、自然の支配・利用という実践的性格の強い近代の合理主義とは異なり、純粹に知ることを目的とする [1] 的性格の強いものであった。

ギリシア哲学は、(a)紀元前6世紀ごろ、ギリシアの植民地イオニアに栄えた都市国家(ポリス)の生活を基盤として生まれた。当時の市民たちは、生活の労苦の大部分を奴隷の手にまかせ、自分たちは会話や討論に没頭する閑暇(スコレー)をもつことができた。このような生活上のゆとりが、ギリシア哲学を形成する一つの要因であった。

このイオニアの地に、自然哲学者といわれる最初の哲学者たちが生まれた。それまでは、人間や世界の謎を知りたいとするギリシア人たちの欲求には、神話がこたえていた。(b)ギリシア神話を伝えるものとして、神の定めた運命と戦う英雄たちの姿をえがいたホメロスの『イリアス』(c)『オデュッセイア』、宇宙万物の生成していく過程を神々の結婚出産の系図といった形でえがいた [2] の(d)『神統記』などがある。そこでは、この世界の起源やそこで生じるさまざまな出来事が、神々の働きの結果として説明されていた。

しかし、これら自然哲学者たちは、そうした神話的説明には満足せず、それを合理的思考によってとらえようとした。すなわち、人間の(e)ロゴスにもとづき、変化生成する一切の諸現象をあらゆる利害関心から切り離して冷静に見つめ、その根底にある不変の理法をとらえようとした。

問1 文章中の空欄 [1] ~ [2] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。

- [1]

①	イデア	②	ミュトス
③	ソフィア	④	テオリア

- [2]

①	エウクレイデス	②	ヘシオドス
③	ヘロドトス	④	トゥキュディデス

問2 下線部(a)に関して、ヤスパースは紀元前500年の前後300年を枢軸時代と呼んだが、その時代の出来事として**適当でないもの**を、次の①~④のうちから一つ選べ。[3]

- ① 孔子の誕生 ② イエスの出現 ③ 仏陀の誕生 ④ ゴロアスター教の信仰

問3 下線部(b)に関して、ギリシア神話に登場する神の名前として**適当でないもの**を、次の①~④のうちから一つ選べ。[4]

- ① アフロディテ ② トート ③ アテナ ④ ヘルメス

問4 下線部(c) に関して、オデュッセイアのあらすじとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[5]

- ① その英雄は、蛇の髪を持ち見た者を石にする怪物を倒した。
- ② トロイヤ戦争で友人を殺されたその英雄は、怒りとともに敵を討つ。
- ③ その英雄は自ら人質となって、迷宮に住む牛頭人身の怪物を倒した。
- ④ トロイヤ戦争の後、その英雄は神の怒りを招いて10年間の漂泊の旅を続ける。

問5 下線部(d) に関して、次の『神統記』の引用文中の空欄[6]に入る最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

まず原初に [6] が生じた さてつぎに
胸幅広い大地（ガイア） 雪を戴くオリュポスの頂に
宮居する八百万（やおよろず）の神々の常久（とこしえ）に揺るぎない御座（みくら）
なる大地 と
路広（みちびろ）の大地の奥底にある曖々（あいあい）たるタルタロス
さらに不死の神々のうちでも並びなく美しいエロスが生じたもうた。
この神は四肢の力を萎えさせ 神々と人間ども よろずの者の胸うちの思慮と考え深い
心をうち拉（ひし）ぐ。
[6] から 幽冥（エレボス）と暗い夜（ニュクス）が生じた
次によるから 澄明（アイテル）と昼日（ヘメレ）が生じた
夜が幽冥と情愛の契りして身重となり 生みたもうたのである。

- ① コスモス ② カオス ③ ハルモニア ④ ミュトス

問6 下線部(e) に関して、ロゴスの日本語の意味として**適当でないもの**を次の①～④のうちから一つ選べ。[7]

- ① 論理 ② 言葉 ③ 理性 ④ 調和

第2問 次の文章を読み、下の問い（問1～問5）に答えよ。（配点 18）

古代ギリシアにおいて、[8] に始まる自然哲学者たちは、(a)万物の根源についてさまざまな学説を提出し、それらは、(b)土、水、空気、火の四大元素説へとまとめられた。自然は全体として有機的・生命的なものとして把握され、(c)目的論的な見方によって統一的に理解された。アリストテレスによって完成されたこうした自然哲学においては、天動説が採用され、地球は宇宙の中心にあるとされた。このような自然哲学は、アリストテレスの学説がイスラム世界や中世ヨーロッパ世界に伝えられ、そこで広く受容されたため、それらの地域でも近代科学以前の支配的自然哲学となった。古代ギリシアには、[9] 論を説く唯物論的かつ機械論的な自然哲学も存在したが、それは無神論であり、宗教を否定するものとみなされ、一般には広がらなかった。

問1 文章中の空欄 [8] ～ [9] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [8] [① ピュタゴラス ② ソクラテス
 [③ タレス ④ アナクシマン드로ス

- [9] [① 観念 ② 原子
 [③ 懐疑 ④ 相対

問2 下線部(a)に関して、万物の根源を意味するギリシア語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[10]

- ① ΨΥΧΗ ② ΑΡΧΗ ③ ΦΥΣΙΣ ④ ΑΡΕΤΗ

問3 下線部(b)に関して、この説を唱えた自然哲学者として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[11]

- ① デモクリトス ② エンペドクレス
③ エレアのゼノン ④ アナクシマン드로ス

問4 下線部(c)に関して、目的論的な見方の説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[12]

- ① 生物は親となり子孫を残すという本性を持つ
② 水と土は下方へ移動することによって本性を実現する
③ 火と煙は上方へ移動する本性を持つ
④ 物質は互いに物質量の積に比例する力が働く本性を持つ

問5 次の自然哲学者たちの説として、最も適当なものを、下の①～⑥のうちからそれぞれ一つ選べ。

ヘラクレイトス [13]

ピュタゴラス [14]

パルメニデス [15]

アナクシメネス [16]

- ① 万物のもとのものは神的な空気、この空気が希薄になると暖かい火が生じ、濃厚になると冷たい水や土や石などが生じるが、この希薄化と濃厚化を通じて生じたあらゆるものは、ふたたび空気へ返る。
- ② 「有るもの」があり「有らぬもの」はないという前提から、不生不滅、不可分、不変不動であって、完結した丸い球に似ている、といった「有るもの」の属性を引き出し、「有るもの」をわれわれに示す理性のみが真理をとらえ、「多」や生成や消滅や変化を信じさせる感覚は誤謬の源であると説く。
- ③ 不可分割体は不生・不滅・無性質・な無数の物質単位であって、たえず運動し、その存在と運動の場所として〈空虚〉が前提とされる。無限の〈空虚〉の中では上も下もない。形・大きさ・配列・姿勢の違うこれら無数の原子の結合や分離の仕方によって、すべての感覚でとらえられる性質や生滅の現象が生じる。
- ④ 魂は元来、不死すなわち神的な存在であるが、無知ゆえにみずからを汚し、その罪をつぐなうために肉体にとらわれている。自然数の神秘は、和音が一絃琴の場合、絃の長さが簡単な数比例をなすことに見いだすことができる。
- ⑤ 宇宙には相反するものの争覇があつて、あらゆるものはこうした争覇から生じる。したがって、「戦いは万物の父、万物の王」である。こうした争覇のうちに秘められた調和、「反発的調和」をみいだすことができる。これが世界を支配するロゴス（理法）である。
- ⑥ 存在するもののもとのものは水でもなければ、普通に要素と呼ばれているいかなるものでもなくて、ある無規定的なる、無限なるものであり、そのものから全天界と天界の内における世界が生じる。ものが生成して存在を獲得するに至ったその基をなすものへと、そのものはまた必然の定めに従って消滅し去る。

第3問 次の文章を読み、下の問い（問1～問3）に答えよ。（配点 10）

やがて紀元前5世紀ごろになると、思索の対象は自然から (a)人間や社会へ移っていった。この新しい哲学の中心となったのがソフィスト（知恵のある人）とよばれる一群の知識人たちである。彼らは、ギリシア各地にある植民都市からアテネへやってきて、青年たちに [17] を教えることで生計をたてていた。

その代表的人物がプロタゴラスである。彼は「 [18] は万物の尺度である」とのべ、真理の基準に客観的なものはなく、一人ひとりの判断がものごとの真偽を決めるという相対主義を主張した。彼の相対主義は、人間の認識を問題の中心にすえた学問的に意義あるものであったが、やがて、彼の影響を受けたソフィストたちは、(b)真偽がなければ弁論において重要なのはもっぱら相手に勝つことだと考えるようになり、詭弁（こじつけの議論）にはしるようになった。また彼らは、善悪の完全な相対性を主張し、法律・道徳・習慣を否定し、人々の間に価値観の混乱を引き起こすことになった。こうした中であって、相手との対話（問答）を通じて、人間の生き方の [19] 的原理をもとめたのがソクラテスである。

問1 文章中の空欄 [17] ～ [19] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [17]

① 哲学	② 知恵
③ 弁論術	④ 勇気

- [18]

① 多様	② 論理
③ ものさし	④ 人間

- [19]

① 現実	② 普遍
③ 個別	④ 特殊

問2 下線部(a)に関して、これらを意味するギリシア語として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

- [20] [① ミュトス ② ノモス
 ③ ピュシス ④ ロゴス

問3 下線部(b)に関して、ゴルギアスの言葉として**適当でないもの**を下の①～④のうちから一つ選べ。[21]

- ① 神々については、彼らが存在するというのも、存在しないということも、またその姿がどのようなものであるかということも知ることはできない。
- ② 何者もあらぬ。あるにしても何ものも知り得ない。たとえ知り得るにしても、それを何人も他の人にあきらかにすることはできないであろう。
- ③ ヘレネを説得して、彼女の魂をあざむいたものが言論であるならば、またこのことに対しても、弁明によって彼女の罪を解消するのは困難ではない。
- ④ 言論は偉大な有力者であって、それは非常に小さな、全く目につかない身体を以て非常に神的な仕事を完成する。

第4問 次の文章を読み、下の問い（問1～問5）に答えよ。（配点 16）

ソクラテスの生きた時代は、アテネが民主政治の黄金時代から、やがて没落の道をたどっていく時期にあたる。彼は、混乱をましつつあるポリスをたてなおそうとして、ソフィストの相対主義に対抗し、(a) 人間のあるべき姿について徹底した思索をおこなった。彼が生涯アテネの人々に向かって説いたことは、「[22] への配慮」をおこたるなどということであった。

ところで、自分の魂をすぐれたよいものにするためには、何が善であり何が悪であるか、何が美しく何が醜いか、つまり [23] についての正しい知（知識）を必要とする。したがってソクラテスは、この知を他のいかなる知にもまして重視した。真の知者とよべる者は、この知をもっている者でなければならなかった。

ところが、ソクラテスがアテネで知者といわれている政治家、詩人、技術者たちと問答をして気づいたことは、彼らのだれ一人として [23] については何も知っていないということ、しかも、知っていないにもかかわらず、あたかも知っているかのように思いこんでいるということであった。彼らは、自分の専門とする領域のことをうまくやりとげるといふ理由で、(b) 自分をすぐれたよい人間であるかのように錯覚していたのである。

これに対してソクラテスは、自分がまだそれについての知をもっていないということをはっきりと自覚していた。自覚していたからこそ、また、その知を得たいという切なる心を持ち、その探究に日夜情熱をそそいでいたのである。この点においてソクラテスは、自分の方がアテネで知者といわれている人たちより、知恵において勝っていると考えた。そしてそこからつぎの結論に達した。真の知者とよべるのは神だけであり、人間の知恵の最高のあり方は、無知の自覚から発する [24] にある、と。このとき以後ソクラテスは、(c) アテネの人々に無知を自覚させることを自分の使命と考えるようになり、街頭に出ては人々との問答に情熱をそそぎ、それに生涯をささげた。

ソクラテスが相手に無知を自覚させるためにとった方法が [25] である。[25] とは、まず相手に正しいと思うことをのべさせ、問答（対話）を通じてそれを吟味していく中で、相手にその考えの不十分さや誤りに気づかせ、より根本的な知に到達させる方法のことである。この方法は、知恵を外から教えこむのではなく、相手の [22] の中に眠っている真理をよびさまし、相手みずからが知恵を生み出すのを助けることであるので、ソクラテス自身によって、(d) 助産術ともよばれた。この呼び名は、彼の母が助産婦であったことにちなんでつけられたといわれている。

問1 文章中の空欄 [22] ～ [25] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [22] [① アレテー ② プシュケー
 [③ ソフィア ④ アルケー

- [23] [① ヒュレー ② メソテース
 [③ エイドス ④ カロカガティア

- [24] [① パンタレイ ② フィリッポス
 ③ フィロソフィア ④ ソフィスト

- [25] [① テクネー ② ディアレクティケ
 ③ レトリケー ④ カタルシス

問2 下線部(a)に関して、ソクラテスが考えた人間のあるべき姿として**適当でないもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。[26]

- ① 富，健康，名誉を得ること
- ② 永遠なる魂をすぐれたものにすること
- ③ ただ生きるのではなく善く生きること
- ④ 知を愛し求めること

問3 下線部(b)に関して、思い込みを意味するギリシア語として最も**適当なもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[27]

- ① パラドクス ② ドクサ ③ エピステーメー ④ フィリア

問4 下線部(c)に関して、そのきっかけとなった出来事として最も**適当なもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[28]

- ① デルフォイの神託 ② ソクラテスの裁判
- ③ ソフィストの悪政 ④ ペロポネソス戦争の勝利

問5 下線部(d)に関して、この方法の別名として最も**適当なもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[29]

- ① エイロネイア ② アントローポス ③ キュニコスビオス ④ メタフュシカ

問3 下線部(a)に関して、この告発の根拠となったこととして、最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[34]

- ① ソクラテスについてのアポロン神の言葉を信じなかったこと。
- ② ミュトスからロゴスへの脱却を主張し、神話的世界観を否定したこと。
- ③ アスクレピオスという神に鶏を捧げるのを忘れたこと。
- ④ しばしば深い忘我状態を経験し、ダイモニオンの禁止の声を聞いたこと。

問4 下線部(b)に関して、『ソクラテスの弁明』という著作を残した人物として、最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[35]

- ① プラトン
- ② アリストテレス
- ③ ソクラテス
- ④ クセノフォン

問5 下線部(c)に関するソクラテスの考え方として、最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[36]

- ① 権力者が決めたことに対して反論することはゆるされない。
- ② 生きながらえることこそが人間にとっての善きことだ。
- ③ 不正を行うことによっては魂を優れたものにすることはできない。
- ④ 脱獄はその法が間違っていることによってのみ正当化される。

問題は次のページにつづきます。

問6 プラトンの著作名として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[49]

- ① 饗宴 ② 国家 ③ 形而上学 ④ クリトン

問7 プラトンの開いた学園に関する説明として最も**適当なもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[50]

- ① 学園への入学条件として幾何学を重視した。
② この学園の人々はペリパトス学派と呼ばれた。
③ 開校から約90年後にユスティニアヌス帝によって閉鎖された。
④ 学園はアテネの彩色柱廊に作られた

これで問題は終わりです。